

## 田淵行男記念館

TEL 72・9964 FAX 88・2010

田淵行男の足跡を巡る  
湯の丸高原バスツアー参加者の募集

田淵行男は浅間山を「感性ひとしお。豊かな女人の姿が連想される」と語り、季節や方向、距離を変えて数多くの作品を残しました。

今回はその浅間山麓を訪ね田淵行男の足跡をたどりま。また散策しながら高山蝶ミヤマモンキチョウやミヤマシロチョウ、ベニヒカゲなどを観察します。

●日 時 7月21日(土)  
午前7時30分～午後4時30分(予定)

●集合・解散 田淵行男記念館(貸切バス使用)  
●講 師 浅間山系ミヤマシロチョウの会会員ほか  
●定 員 30人程度(先着順)  
●条 件 小学生以上の健康な人

●参加料 1人3,000円  
(バス代・保険代など)  
※友の会会員は1,000円  
●持ち物 昼食、飲み物、  
敷物、歩きやすい服装と靴、  
帽子、筆記用具、雨具、リュックサックなど  
●申し込み 6月26日(火)  
午前9時から電話で受け付けます。参加費は当日徴収します。



御代田付近、田淵行男撮影

小檜山賢二写真展  
葉虫～マイクロプレゼンス～

小檜山賢二(1942～)は、同一の対象物に対して撮影された複数の写真の中から、ピントの合っている部分だけをコンピュータに取り込み、合成する「マイクロフォトコラージュ」という手法で昆虫を撮影しています。

肉眼では知ることができない昆虫の微細な構造を可視化し、その存在を実感させる写真作品のほか、昆虫標本などを展示します。

●会 期 7月3日(火)～9月9日(日)  
●会 場 田淵行男記念館 地階展示室  
●休館日 毎週月曜日(7月16日(祝)は開館、翌17日は休館)  
●入館料 高校生以上300円



小檜山賢二撮影《ゲンジョウオオコブハムシ》

## 貞享義民館

TEL 77・7550 FAX 77・7551

## 「岐阜(飛騨の国)大原騒動」参加者の募集

本年度の「義民を訪ねて」は、岐阜(飛騨の国)の大原騒動を取り上げます。大原騒動は江戸時代1771年～1788年(明和8年～天明8年)の18年間にわたって発生した大規模な一揆です。騒動は明和騒動、安永騒動、天明騒動の3つに分けられますが、その時の飛騨の郡代の名を取って大原騒動と称しています。飛騨農民の18年にわたる不屈の闘いについて、遺跡や資料を巡りながら考えてみませんか。

●日 時 7月6日(金) ※2回目を10月に予定  
●募集人数 30人(先着順)  
●見学地 高山陣屋、高札場跡、国分寺跡、桐生町万人講、大原騒動供養塔、飛騨一宮水無神社集会記念碑等  
●集合時刻 午前7時50分(厳守) ※解散、午後6時予定  
●集合場所 記念館ロビー  
●参加費 2,000円(昼食・資料・見学代等)  
●持ち物 飲み物、雨具等各自で必要なものをご準備ください。  
●申し込み 6月26日(火) 午前8時30分から電話で受け付けます。定員になり次第締め切らせていただきます。

## 高橋節郎記念美術館

TEL 81・3030 FAX 82・0551

## 第8回友の会会員展

安曇野高橋節郎記念美術館友の会会員による作品展を開催します。絵画・工芸・彫刻・写真・手芸などさまざまなジャンルの作品を出品します。ぜひご覧ください。

●会 期 6月30日(土)～7月16日(月)  
午前9時～午後5時  
※休館日＝7月2日(月)、9日(月)  
●場 所 安曇野高橋節郎記念美術館南の蔵および主屋  
●入場料 無料(本館展示室は有料)

## 長野県烏川溪谷緑地

TEL FAX 73・0203

✉ karasu@anc-tv.ne.jp

## 昆虫の目から見た棲みよい森づくり

森林エリアを歩きながら蝶を捕まえて観察し、その生態などを学びます。(蝶を持ち帰ることはできません)

●日 時 7月15日(日) 午前9時30分～正午  
●場 所 長野県烏川溪谷緑地 森林エリア  
※集合場所 森林エリア駐車場  
●参加料 無料 ●定 員 25人  
●申し込み受付 6月21日(木) 午前8時30分から電話・ファクス・メールで申し込んでください。

## 植物標本づくり教室

森を散策しながら樹木観察し、押し葉標本の作り方や保存の仕方を学びます。

●日 時 7月29日(日) 午前9時～正午  
●場 所 長野県烏川溪谷緑地 森林エリア 森の家  
●参加料 無料 ●定 員 20人  
●申し込み受付 6月21日(木) 午前8時30分から電話・ファクス・メールで申し込んでください。

## 7月の図書館イベント

## 図書館映画上映会(入場無料)

「ロビン・フッドの戦い」2009年カナダ作品  
●日時 13日(金)開場 18:30 上映 19:00～  
●場所 穂高交流学习センター「みらい」多目的交流ホール  
※日本語吹き替え、字幕あり  
「99歳の詩人柴田トヨー心を救う言葉」  
●日時 1日(日)開場 10:30 上映 11:00～  
●場所 豊科交流学习センター「きぼう」多目的交流ホール

## おりがみの部屋

中央図書館 ●日時 18日(水) 16:15～  
●場所 中央図書館おはなしのへや  
堀金図書館 ●日時 25日(水) 16:15～  
●場所 堀金図書館児童コーナー

## ドキドキ・ワクワクお話の世界

◇中央図書館 おはなしのとびら  
中央図書館おはなしのへや  
4・11・18日(各水曜日)  
10:30～(乳幼児対象)  
◇中央図書館 おはなしとしゃかん  
中央図書館おはなしのへや  
21日(土) 10:30～(乳幼児対象)  
11:20～(幼児以上対象)  
◇豊科図書館 ちいさいたんぽぽ  
豊科図書館多目的室  
13日(金) 11:00～(乳幼児対象)  
◇豊科図書館 おはなしたんぽぽ  
豊科図書館多目的室  
13日(金) 16:30～(幼児以上対象)  
◇三郷図書館 ポケットの会  
三郷公民館児童室  
14日(土) 10:30～(乳幼児以上対象)  
◇堀金図書館 おはなしのへや  
堀金図書館児童コーナー  
11日(水) 10:30～(乳幼児対象)  
24日(火) 16:20～(幼児以上対象)  
◇明科図書館 ひまわりおはなし会  
明科図書館内おはなしの部屋  
21日(土) 11:00～(乳幼児以上対象)

●日時 7月29日(日)  
午前10時～11時30分  
●場所 穂高交流学习センター「みらい」内中央図書館  
●定員 市内在住の小学生20人(先着順)  
●申し込み 7月1日(日) 午前9時から電話受け付け開始。または中央図書館カウンターでお申し込みください。

●集合場所 穂高交流学习センター・みらいエントランスホール  
●日時 7月28日(土)  
午後6時～8時  
●場所 穂高交流学习センター「みらい」内中央図書館「フラウジング」  
●対象 小学生以上(中学生以下は保護者同伴)  
第1部 小学生以上向け  
第2部 大人向け

●申し込み 6月26日(火) 午前8時30分から電話でお申し込みください。  
●日時 7月12日、8月9日、9月13日、11月8日の各木曜日  
いずれも午前9時30分～11時30分  
●現地研修 10月11日(木)  
物語の舞台を訪ねる予定です。実費をいただきます。  
●場所 三郷公民館第一会議室  
●対象 市内在住の人  
●定員 20人(先着順)  
●講師 元松本市北部公民館長 清沢由之さん。

館内見学では、普段入ることのできない閉架書庫などへ図書館職員がご案内します。また、読みたい図書の探し方など一歩進んだ図書館の利用法を紹介します。

「穂高絵本とお話の会」の皆さんが、絵本の紹介や素語りをします。絵本が好きな皆さん、ぜひ、ご参加ください。

中央図書館見学ツアー  
参加者の募集

TEL 84・0111 FAX 84・0116 中央図書館

## 中央図書館夜のおはなし会

TEL 84・0111 FAX 84・0116 中央図書館

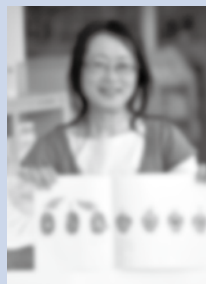
「平家物語の群像に迫る」をテーマに「文学講座」を開催します。気軽に参加ください。  
●開講日時 7月12日、8月9日、9月13日、11月8日の各木曜日  
いずれも午前9時30分～11時30分  
●現地研修 10月11日(木)  
物語の舞台を訪ねる予定です。実費をいただきます。  
●場所 三郷公民館第一会議室  
●対象 市内在住の人  
●定員 20人(先着順)  
●講師 元松本市北部公民館長 清沢由之さん。

## 三郷図書館文学講座(全5回)

TEL 76・3078 FAX 76・3077 三郷図書館

## おすすめの二冊

「はらぺこあおむし」のひみつ 著者 エリック・カール



紹介する人

岡村裕子 さん  
(穂高・等々力町)

あおむしが曜日ごと、いろいろな食べ物をもりもり食べて、モクモク大きくなり、おなかをこわして泣いてしまう日もあるけれど、最後には美しいチョウへ：という多くの人に愛されている絵本です。印象的な最後のページは原案にはなかったそうですが、編集者の言葉がきっかけで書き加えられたということです。

この絵本は1976年に邦訳が発売され、1985年に改訂されました。読み聞かせの研修会で「最初のころと改訂後の絵本には違いがある」ことを聞きました。特にわかりやすいのは絵柄が違っていた。「ち」のページです。作者の「絵本や読む人たちへの想いが伝わってくるな」と思うとともに、絵本にはいろいろな楽しみ方があるのだと改めて感じました。図書館で「トリビアのある絵本コーナー」を企画すれば楽しいと思います。

家にあるのは「わたしだけのはらぺこあおむし」という、ぬり絵バージョン。絵本を開くと、色を選びながらたくさん小さい丸をぬっていた子どもたちの姿を思い出して、とても懐かしくなりました。絵本と一緒に思い出のページも楽しむことができました。

皆さんも「はらぺこあおむし」のひみつを楽しんでみませんか。